

ひそ いだ かけ 水に潜み、森に抱かれ、大空を翔る

～トンボが見た熊野の自然～

紀伊半島の南部地域に位置する「熊野」。地域の大部分は幾重にも連なる急峻な山地で、平野はほとんどありません。トンボには不向きと見られていたこの熊野特有の地形を、彼らは巧みに利用してたくましく生きていました。豊かで深い森の間に散りばめられた無数の小さな水辺を頼りに、大空を自由に翔けて移動し生き抜いています。

水と森、大空がそろった熊野はトンボにとって「聖地」だったのです。

山また山 一どちらを向いても森

トンボにとって「森」はキーワードです。森は、急流の水勢を緩やかに調整し、湿地や池にきれいな水を供給します。羽化したトンボの多くは、未熟な間、森の中や周辺で過ごし、成熟してからもここを寝床にします。

熊野では、現在80種のトンボが確認されています。これは104種記録されている近畿地方の総数と比べると決して多くありません。しかしここには、全国や近畿地方で姿を消しつつある「絶滅危惧種」が数多く確実に生存していることがわかりました。

温暖で豊富な降水量に育まれた豊かな森が、トンボたちの“ゆりかご”となって彼らを守っているのです。



トンボの隠れ里 ～湧水湿地～

多雨地帯の熊野には、海岸ぎりぎりまである照葉樹林の際に湧水湿地が見られます。湿地特有のトンボの絶好の生息地です。



モートンイトンボ



ハネビロエゾトンボ



オオイトンボ

鉱物質の水が浸み出す湿地

熊野には多くの鉱床があります。そこに浸み出する水は、鉱物質を含み酸性で、背丈の低い抽水植物群落が形成されます。この環境は、日本一小さいハッショウトンボに最適です。



ハッショウトンボの雌雄

森に隠れた大小のため池

山際には、水量調節や農業用水確保のため大小のため池が造られています。



キトンボ



チョウトンボ



オツネントンボ

棚田は赤トンボの宝庫

平地のない熊野にはたくさんの中流域特有の砂底や泥底の環境は、湿地を縫うように流れる小さな水路や河川に造られた堰堤にわずかに見ることができます。



ミヤマアカネ



アキアカネ



ナツアカネ

緩やかな流れや細流

熊野の河川の多くは急流のため、河口でも上流域のように砂や泥が堆積していません。他地方のような中流域特有の砂底や泥底の環境は、湿地を縫うように流れる小さな水路や河川に造られた堰堤にわずかに見ることができます。



アオサナエ



キロサナエ

海岸部に広がる池沼

熊野では、海岸部の山裾に広がる平地は珍しい存在です。数少ないこのような場所には多くの種が集まります。



マイコアカネ



ギンヤンマ



ネアカヨシヤンマ

黒潮踊る岩礁帯

高潮時に海水が入り込むような岩礁帯の水溜り。塩分濃度の低くない極限の地に繁殖する不思議な赤トンボ。



タイリクアカネ

コサナエとその仲間

絶滅が危惧されているコサナエ属が和歌山県に生息しています。



コサナエ



タベサナエ



フタスジサナエ

南方から熊野へ

熊野は、台風の主要進路にあたるため、シーズンには風に乗って南方や四国からの飛来種が見られます。



ベニトンボ



ハネビロトンボ